人生のリスク管理を楽しく学ぶ

高校生を対象に民間保険の業界団体が提供する「ソナソナ～備える者たちに幸あれ～」の取組について





公益財団法人 生命保険文化センター　中尾健太／一般社団法人 日本損害保険協会　福浦祥太

人生のリスク管理を楽しく学ぶ
高校生を対象に民間保険の業界団体が提供する「ソナソナ～備える者たちに幸あれ～」の取組について

公益財団法人 生命保険文化センター　中尾健太／一般社団法人 日本損害保険協会　福浦祥太

公益財団法人生命保険文化センターカードゲーム教材「ソナソナ～備える者たちに幸あれ～」
https://www.jili.or.jp/school/yokoku/9871.html
一般社団法人日本損害保険協会「カードゲーム教材「ソナソナ～備える者たちに幸あれ～」」
https://www.sonpo.or.jp/report/publish/education/0017.html
※掲載している教材は同一です。

病気や事故、自然災害など、予期せぬリスクが存在する現代社会において、自助・共助・公助を適切に組み合わせることが重要です。特に次世代を担う子どもたちは、社会保障制度（共助・公助）の仕組みと自ら将来に備える「自助」を理解することが大切です。このような理解を深めるため、公益財団法人生命保険文化センターと一般社団法人日本損害保険協会はカードゲーム教材「ソナソナ～備える者たちに幸あれ～」を共同制作しました。この教材では、人生で直面しうる様々なリスクを疑似体験しながら、カードゲームを通じて、社会保険や民間保険（生命保険・損害保険）を学習することができます。「備える方法」を学ぶことも重要な消費者教育といえます。今回は、制作を担当されたお二人にお話を伺いました。

２団体がタッグを組んで人生のリスクと“備え”を疑似体験できるカードゲーム教材を開発

▶どういった教育活動を実施していますか？

公益財団法人（以下、公財といいます。）生命保険文化センターでは、中学生・高校生・大学生など幅広い対象者に対して、授業で使える副教材を制作し、無償で提供する活動を行っています。また、授業内で実施する講座の講師派遣も行っています。先生のご要望に応じて、１コマでも複数コマでも、クラス単位や学年単位、またオンライン・オンデマンド・対面いずれも対応可能です。

一般社団法人（以下、一社といいます。）日本損害保険協会では、金融経済教育推進会議で作成された「金融リテラシー・マップ」をもとに、年齢層別の保険教育、防災教育の取組を進めています。幼児、小学生では「リスク認識の促進」、中高生では「生活と保険の関係理解」、大学生や社会

人では「保険の理解と適切な活用」というように、教材は段階を踏んだものにしています。

▶二つの団体で独自に開発したカードゲーム教材「ソナソナ～備える者たちに幸あれ～」の概要を教えてください。

（公財）生命保険文化センターと（一社）日本損害保険協会、（一社）生命保険協会の３団体で、2023年11月に「保険教育に関する包括連携協定」を締結しています。協定の中に、保険教育に係る教材やコンテンツについて、連携し協力することとしており、同協定に基づいて（公財）生命保険文化センターと（一社）日本損害保険協会で「ソナソナ」を作成しました。

「ソナソナ」には「イベントカード」「安心カード」「ボーナスカード」の３つのカードがあります。「イベントカード」は事故や病気など人生におけるリスクが書かれたカードで、「安心カード」はリスクへの備えとしての民間保険や社会保険が書かれたカード、「ボーナスカード」は結婚や投資の成功といった一般的には喜ばしいとされる出来事が書かれたカードです。様々なライフイベントを経験しながら、時にはボーナスもありつつ、リスクへの備え方を学ぶことができます。

すでに各団体で持っている独自教材との違いは、よりアクティブ・ラーニングに寄せている点です。まず、リスクとリスクへの備え方（社会保険及び民間保険）を学習し、その後にカードゲームを使って学習したことを疑似体験する２部構成にすることで、楽しみながら学ぶ教材としています。

▶教材には生徒用ワークシート、教員用手引書、授業導入説明スライドなどのサポートツールがあります。こちらをつくった背景を教えてください。

「ソナソナ」は主に高校の公民科と家庭科の授業で使うことを想定しています。交流のある先生方から「授業を準備する時間が不足している」という悩みをお伺いします。そのため、制作の初期段階から、先生方の授業前の準備や授業中の進行のしやすさを目的に、このようなサポートツールの整備は想定していました。

リンク

カードゲーム教材「ソナソナ」各種サポートツール
https://x.gd/ECk3Q

カードゲーム教材「ソナソナ」の特徴と工夫点

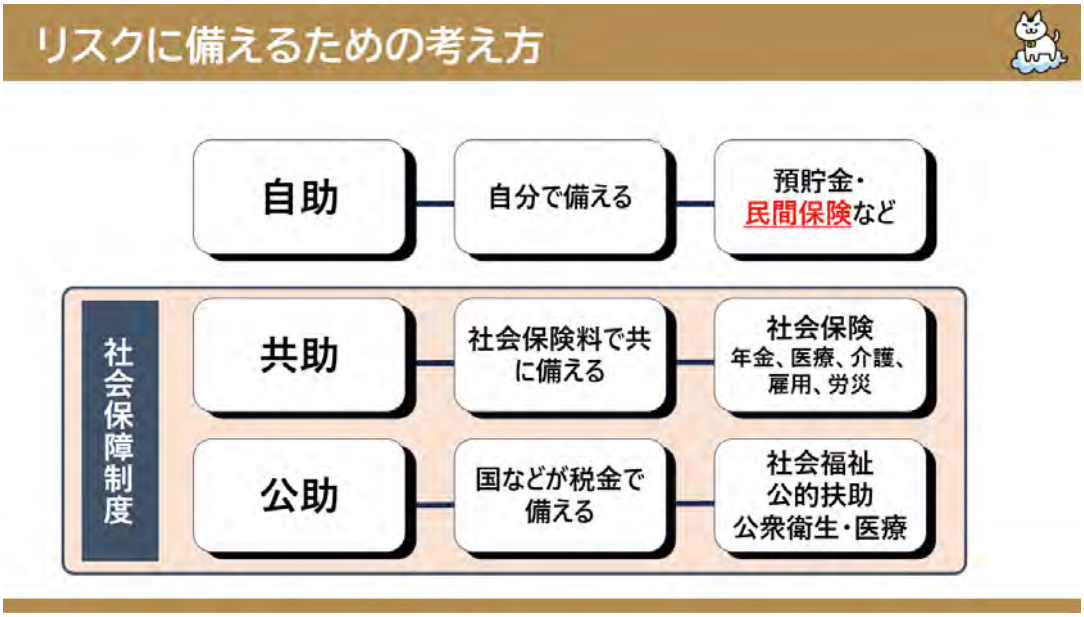
POINT 1　授業時間内で完結

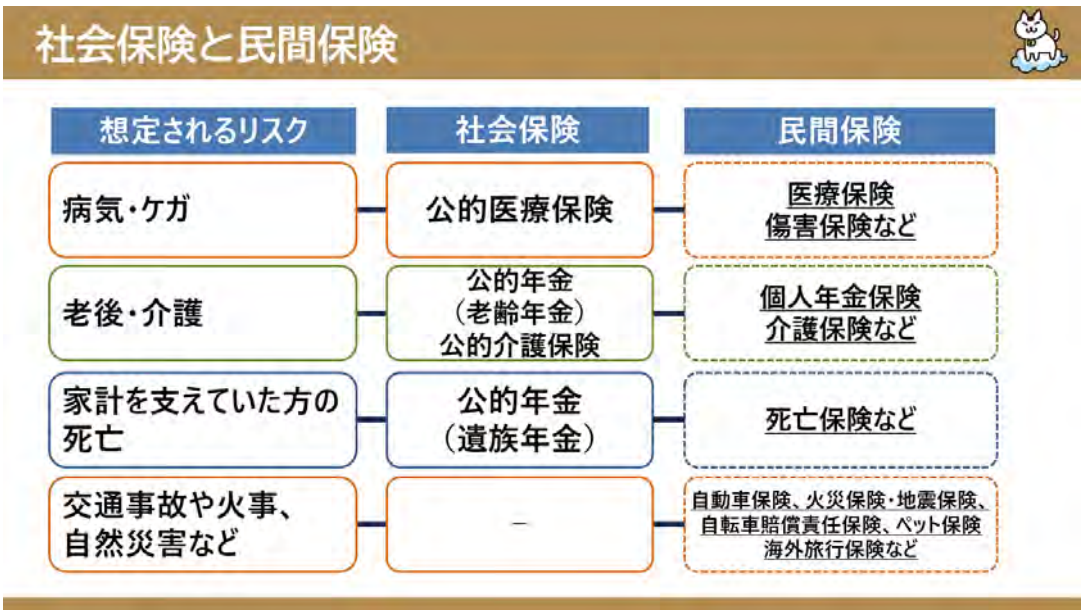
高校の１時限、50分程度で終えられることを前提に作成しています。また、カードゲームを短時間で終わらせるショートバージョンもご用意しています。カードゲームに時間を割きたい先生もいれば、学習時間を確保してカードゲームを短時間にしたいと考える先生もいらっしゃいます。そ

のため、どちらのニーズにも応えられるようにしています。

POINT 2　自助・公助・共助を踏まえてゲームへ

授業導入説明のスライドで、日本においては人生のリスクへの備えとして「自助・公助・共助」が存在することを紹介しています。公助・共助は国や自治体による社会保障制度で、自助は自らが備える預貯金や民間保険という性質の違いを分かりやすく解説し、そもそもリスクへの備えとは何かについて、理解を促します。ゲーム時には、登場するイベントカード（リスク）と安心カード（社会保険、民間保険）の関係をより理解できるようになっています。

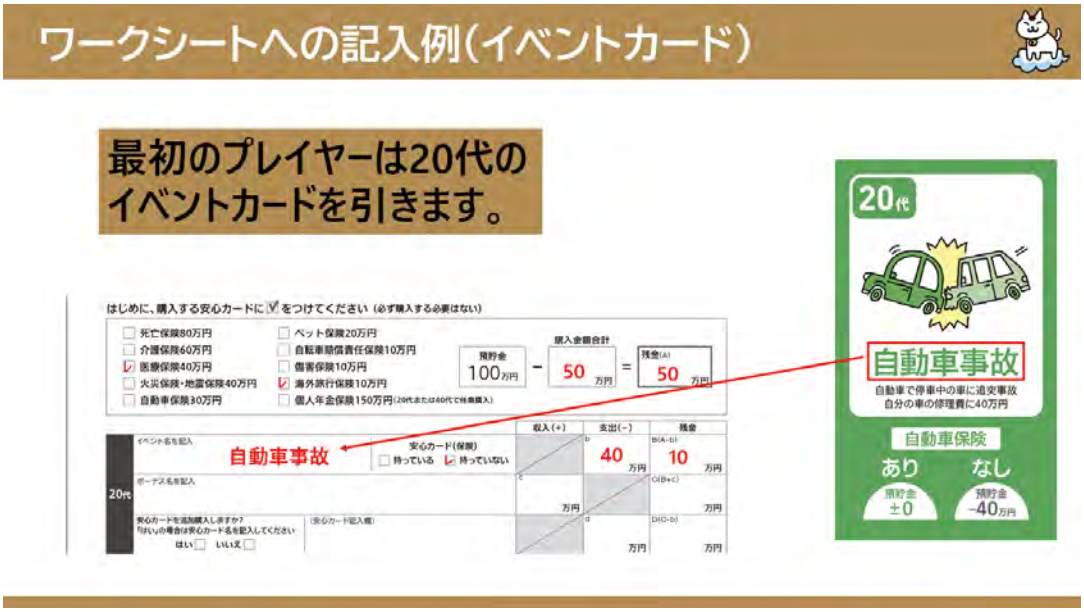




プレイヤーは、まずリスクに備える３つの考え方である「自助」「共助」「公助」を学ぶ。そして、想定されるリスクに応じて対応する保険の種類は異なることを理解してからゲームはスタートする。

POINT 3　人生における様々なリスクの発生確率を「イベントカード」の枚数に反映するリアルな設計

プレイヤーは、預貯金100万円からゲームを開始します。自動車保険などの計10種類の“備え”を預貯金の範囲内で購入し、イベントカード（交通事故や病気など人生におけるリスク）での出費に備えます。イベントカードはゲームの進行に合わせ、年代ごとに引いていきますが、20代のイベントカードは交通事故が多く、老年のカードには病気が多いというように、リスクの実際の発生確率を踏まえて年代ごとに各種イベントカードの構成割合を決めています。例外もあるため、完全に現実に沿うわけではありませんが、極力データや実態に沿った設計にしています。リスクごとに備える保険があることを学ぶことができます。ゲームはプレイヤーがイベントカードを最後の年代まで引き切ったときに終了し、自分の備えが十分だったかなどを振り返ります。なお、最終残金を競うゲームではありません。



「イベントカード」の例と使い方

POINT 4　「ボーナスカード」で楽しく学べるバランスを

ゲームの進行をリスクと備えの要素だけとすると、人生はリスクばかりという印象が強まり、ゲームが暗くシリアスになってしまいます。当然、人生はリスクばかりではなく嬉しいことも起こります。「ボーナスカード」があることで、楽しく学べるようにしています。



「ボーナスカード」の例（左：表面、右：裏面）

POINT 5　アンコンシャス・バイアスにも配慮したビジュアル

たとえば「ボーナスカード」の結婚のイラストは、男女のカップルではなく、花束にしています。現時点では同性婚は法的に認められていませんが、結婚するのは男女だという無意識の思い込み、“アンコンシャス・バイアス”を排除しました。



多様性の時代に即したデザインの「ボーナスカード」

取組事例紹介

▶出前講座の実績、受講者の属性などを教えてください。

「ソナソナ」の提供は主に高等学校のみを対象とし、２団体のホームページやニュースリリースなどから問い合わせをいただいて提供しています。提供を開始した2025年度は、７月までに２団体合わせて約400校から申し込みがありました。なお、１校あたりの本教材のセット数は６セットまでと上限を設けています。１セットで７名までプレイできるので、６セットでおおよそ１クラス分という計算です。セット数としては、現状で2,400セットを提供しました。（公財）生命保険文化センターによる講師派遣では、現時点で、約10校で「ソナソナ」を使った講座を実施しました。



「ソナソナ」の実施風景

▶「ソナソナ」を使ってみた先生方からの感想を教えてください。

以下のような感想をいただいています。

・単元のまとめとして実施しました。生徒が楽しみながら学習しており、とても良い教材だと思いました。

・生徒が楽しみながら、リスクに備えることの重要性について理解を深めることができました。
・楽しくゲームをしながら、リスクと保険の対象が理解でき、とてもよい教材です。
・リスクを防ぐ必要性についての理解が高まったように感じます。ワークシートも使いやすく、書く量もちょうど良く、助かりました。
・まだ自立していない生徒にとって身近な内容ではない保険について教えるのに苦慮していました。このゲームをやることによって、保険に入らないといざという時に大変なことになるという実感が持てたようです。また、ライフプランを改めて考えるきっかけにもなっていました。

「ソナソナ」でリスク管理を楽しく自分事にしてほしい

▶今後の展望を教えてください。

全国に高校は5,000校ほどあります。より多くの方に手に取っていただき、少しでもこの教材が広まって、先生のお役に立てることを願っています。

▶消費者教育を担う先生方や、一般消費者の皆さんにメッセージをお願いします。

18歳成人になって、高校生でも様々な契約行為が可能になりました。高校を卒業してすぐ社会人になられる方は特に、そういった機会が増えることになります。特に高校生には社会保障制度や、貯蓄・民間保険などを含め、「リスク管理」をきちんと学んでほしいと思います。ただ、リスク管理というと難しくてどうしたらいいか分からないと感じる方も多く、学生だとなおさら自分事として捉えにくいと思います。「ソナソナ」は周りと対話しながら、楽しくプレイすることで、「リスク管理」を自分事として感じていただけると思います。ぜひお手に取って、授業でご活用いただけますと幸いです。

▶ありがとうございました。

もっと知りたい方はこちら！

講師派遣のご案内（生命保険文化センター）：https://www.jili.or.jp/lecturer/index.html